

# 2018年度(平成30年度)十日町幼児園自己評価

## 1、園の保育目標

キリスト教精神により愛と平和と人権を大切にした保育

1. キリスト教保育
2. 一人ひとりの育ちを大切にする保育
3. 生命の輝きを知る保育

大人の都合や価値観が優先され、これが良い教育だと錯覚されることが多い中、「遊ぶこと、甘えること、愛されること」など、本来子どもが最も必要としていることを大切にしています。今受ける愛が人生の輝きの源になる、これが私たちの保育です。

## 2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した園の評価の具体的な目標や計画

- ①子どもたちが安心して幼児園での生活を送るようにする。
- ②礼拝や誕生会や日々の生活を通して、自己肯定感（自尊感情）を身につける。
- ③子ども自身が遊びや生きた体験学習を通して自発性・自主性を高める。
- ④ケンカなどのぶつかり合いや日々の生活を通して、友だちを尊敬し、周りの人に感謝することによって協調性(思いやり)を育てる。
- ⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育する。
- ⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営していく。
- ⑦日々の生活を通して、子どもと保育者、保護者と保育者が信頼関係で結ばれること。
- ⑧食事への意欲を養い、共に食卓を囲む喜びを体験する。
- ⑨地域社会の中の保育園として、地域に開かれた保育園として地域住民との交流をより促進する。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	現 状 分 析
①子どもたちが安心して生活し、いきいきしているか。	登園時に涙する子もいるが、その子の気持ちを受け入れ寄り添うことに注力することで園生活を始める事が出来ている。また保育者を誘い共に遊んだり「みててね」といって自分のできたことをみせたりと、自信をもって楽しく過ごす姿が見られる。また子どもたちが喜怒哀楽の感情もよく出せている。
②子どもたちの自己肯定感（自尊感情）が育っているか	3歳未満児（以下：未満児）は1対1の関わりを大切にし、受容・応答的な関わりを心がけた結果、安心してしている姿が見られる。3才以上児（以下：以上児）も年度初めから少しずつ気持ちを伝えてくれる機会が増え、自分が受け入れられていると感じている子どもが多い。
③子どもたちの遊びを通して自発性・自主性を発揮し、また保育者が子どもたちにとってよき援助者となりえているか	子どもたちの遊びに対する思いを汲み取りながら、遊具や教材を準備したり、様々な行事を通して、子どもたちが主体的に遊ぶことができるように関わることが出来ていると感じる。何かの制作を行う時は子どもが自分から関わるような形で促し、子どもの自主性・自発性を大切に保育を展開できた。
④子どもたちが日々の関わり合いの中で、互いを思いやる心が育っているか	以上児はケンカの際、先生に解決を求めていたが、徐々に自分の気持ちを表現し相手の気持ちも聞く姿勢ができ、またケンカを仲裁する子どもの姿も見られた。未満児も友だちに関心を示す子どもが増えてきた。また礼拝時にお休みのお友だちを覚えてお祈りする姿も多く見られた。
⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育しているか	保育所保育指針に基づいて、各年齢に応じた保育をより一層心がけている。ただし、子どもたち一人一人の育ちのスピードにも個性があるので、一人一人の育ちの在り様に、より配慮して保育を展開した。
⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営しているか	日々の保育の中で、保育者だけではなく子どもに関わるスタッフが、報告・連絡・相談を通して、子どもたちにより良いかかわりができるように連携して、保育を展開できた。また職員会議を通して子どもの情報を園全体で共有する事が出来ている。特に当園は看護師が2名いる強みを活かして、看護師との連携をより密接にしていくことを園全体で確認した。
⑦子どもと保育者、保護者と保育者の間に信頼関係が結ばれているか	子どもと保育者の信頼関係は構築されていると思う。特に未満児は特定の保育者との愛着形成を意識した関わりが出来ている。保護者とも連絡帳のみならず口頭でも子どもの育ちを伝え確認する機会が多くあり、以上児になっても子どもの育ちをきめ細やかに保護者に伝えることで信頼関係ができていく。
⑧食事への意欲が育ち、共に食卓を囲む喜びを子どもたちが感じているか	多くの子どもが給食の時間を楽しみにしている。食べる喜びと、食卓の雰囲気を楽しむ様子が見られる。しかし偏食がある子も多く、無理に食べさせるのではなく、食べられた喜びを感じられるように工夫する。
⑨地域にある園として地域に開かれ、地域住民とのこすりゆうが図られているか。	子どもたちも職員も近隣住民の方々に挨拶する関係が出来ており、住民の方々も当園の子どもと職員の顔を覚えてくださっている。また6月には市役所や交番、駅に向いてお花を渡すことで日頃の感謝を伝えている。

#### 4、評価項目の取組をより深めるために保育者がどのように対応するのか

評価項目		保育者がどのように対応するのか
①子どもたちがいきいきして過ごすために	⇒	全職員が笑顔で向き合い、子どもたちを丸ごと受け止められること、子どもたち一人一人に合わせた教材準備や環境設定を意識的に行っていく。
②子どもたちの自己肯定感（自尊感情）が育つために	⇒	“自分はここにいていいんだ”という思いを子どもが持てるように、子どもたちの思いを大切に受け止め、小さな成功体験(喜び)を積み重ねていけるように配慮する。また子どものがんばりを認めていく。
③保育士が子どもたちにとってよき援助者となるために	⇒	子どもたちの今の姿を肯定的な視点で見つめるなかで、新たな発見を与えられる。そして子どもの発達段階を良く理解して、準備して保育に臨み、常に振り返りを行い、試行錯誤を繰り返しながら保育していく。
④子どもたちの互いを思いやる心を育てるために	⇒	保育士・職員が子どもたち一人一人の良い所に目を向け、一人一人を肯定するまなざしを向け、声掛けをしていく。職員同士や職員が子どもを思いやることで、子どもは思いやりのある人に育っていく。
⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育するために	⇒	全職員が定期的に各種研修に出席することはもちろん、日々保育所保育指針を見直し、職員会議における学びも継続していく。クラス内の連携はもちろん、全職員が子どもの育ちを共有して共に育ちあっていく土壌をより醸成する。
⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営するために	⇒	管理職はもちろん、全職員が「やらされる保育」ではなく当事者性をもって働くようにする。そのためには、常に共に学ぶ姿勢をもつことと、管理職も引き続き肯定的まなざしや態度をもって全職員に接していく。
⑦子どもと保育者、保護者と保育者の間に信頼関係が結ばれるために	⇒	子どもや保護者が「自分は受け入れられている」という実感をもてること。そのためには担任はもちろん、すべての保育者や職員がいつも肯定的まなざしと慰めと励ましを注ぐことに注力することが大切である。
⑧食事への意欲と、共に食卓を囲む喜びを実感するために	⇒	保育者自身がまず楽しい食卓を作り出すことが大切である。食事マナーも大切であるが、食卓が「小言を受ける場」になるのではなく、楽しく笑顔で集える場所になることが大切であり、栄養士・調理員との連携をより密にしていく。
⑨地域に開かれ、地域住民と交流を図るために	⇒	いつも子どもたちのために配慮や見回りをしてくださっている地域の方と共に過ごす時をより持てると良いと思う。

## 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
職員同士の保育理念の共有をより深く	<p>当園は、就職以来ずっと勤めている職員が多くいる一方、他の幼稚園・保育園からの転職者や他業種からの転職者もいる園です。それぞれが違った視点をもっている点は当園の強みであると思います。同時に課題としては、連携がとれないとそれぞれがバラバラの保育イメージで進んでいく可能性もあります。ですから常に当園の保育理念や子ども観を共有していく必要があります。これらは上からの押し付けで教える意味はなく、共有すべきものであると考えるので、これからも山本愛泉保育園との二園合同研修会などで常に確認していく必要があります。特に保育の中での当たり前をもう一度とらえ直していくことで、大切にしていることの意義と、ただ惰性で続けてきたことがわかるので、保育の当たり前をとらえ直す視点を持ち続けていきます。</p>
十分にのびのびと遊びこむことができる遊びの設定	<p>国内有数の豪雪地帯である十日町市にある当園は、園庭で遊べる期間が4月下旬～12月上旬までです。お天気の良い日は園庭やお散歩に出かけていくことで、広い世界に子どもを誘い、土や水にふれ、草花をみてふれること、そして地域住民の方々と交流するチャンスでもあります。保育環境は保育園の中だけではなく、街すべてが子どもたちの育ちの場であることを意識して、どんどん外へ出ていきたいと思っています。</p> <p>また、冬季にはどうしても園内で過ごす時間が増えます。子どもたちがのびのび遊べる空間をより工夫しながら作り出していきたいと思っています。</p>
十日町幼稚園を知ってもらう	<p>当園は十日町で最初に設立された乳幼児施設ですが、外観が保育園のような感じがしないことや子育て支援事業などを行っていないため、あまり知られていません。2019年度から未就園児子育て支援事業を始めます。単なる園庭解放ではなく、「未就園児親子の居場所となること、保護者の方も楽しめるものであること、在園生とも触れ合える機会をもつこと」をコンセプトに行います。これからも地域に必要とされる保育園として歩んでいきます。</p>

